

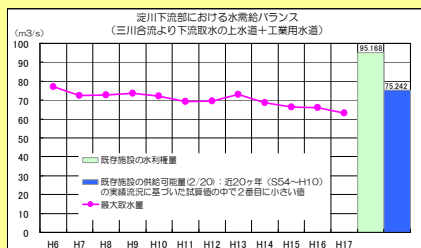
利水

目標：河川流況の回復を目指すとともに、水需給の逼迫する地域への対応、渇水への備えを行う

- 琵琶湖の水位低下の緩和と河川の豊かな流れの回復を目指し、水需要の抑制と水資源の有効活用に努めます
- 水需給が逼迫している地域に対応するため、必要な新規水源を確保します
- 異常渇水に備えるため、渇水調整の円滑化を図るとともに異常渇水対策容量を確保します

現状の課題

- ・淀川水系の水は約1700万人が利用 これまで多数の水資源開発施設を整備
- ・高度な水利用にともない、河川流量や攪乱が減少、琵琶湖水位が低下



- ・人口増の鈍化や社会経済構造の変化により近年は開発水量と実績取水量が乖離傾向
- ・少雨化により水資源施設供給能力が低下
- ・農業用水についても水利用の形態が変化

伊賀地域における工業団地開発

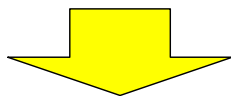


- ・伊賀地域や京都府南部地域など、地域開発にもなって水需給が逼迫したり、安定的な水源が確保されていない地域がある

H6渇水時の琵琶湖



- ・近年の少雨化傾向により渇水が頻発
- ・地球規模の気候変動による降雨量の変動の増大により今後渇水の危険が高まるおそれ



○河川流況や攪乱の回復、琵琶湖水位の低下の緩和、利水安全度の確保を図るため、水利用の合理化や有効活用を図ることが必要

○水需給の逼迫している地域に対して対応が必要

○異常渇水の発生に対して備えることが必要

整備内容

○水需要の抑制と水資源の有効活用

- ・節水や再利用により取水量を減らすことに努める
利水者、自治体等関係機関、市民と連携
時間をかけた継続的な取り組み

- ・利水者の水需要の精査確認による適切な水利権許可
- ・取水量の長期的・安定的な減少が見込まれる場合の水利権の見直しと 水利権が見直された場合の利水安全度等を考慮した水源転用等の水利用の合理化

- ・既存水資源開発施設の効率的な活用による水資源の有効活用
水位変動や攪乱の増大を考慮



○水需給が逼迫している地域において新規水源を確保

- ・伊賀地域 川上ダムにより新規水源を確保
- ・京都府南部地域 天ヶ瀬ダム再開発により新規水源を確保

○渇水調整の円滑化と異常渇水対策容量の確保

- ・平常時からの情報交換などによる渇水調整の円滑化

- ・異常渇水対策容量を確保

丹生ダムで確保する方法と琵琶湖で確保する方法について調査・検討

